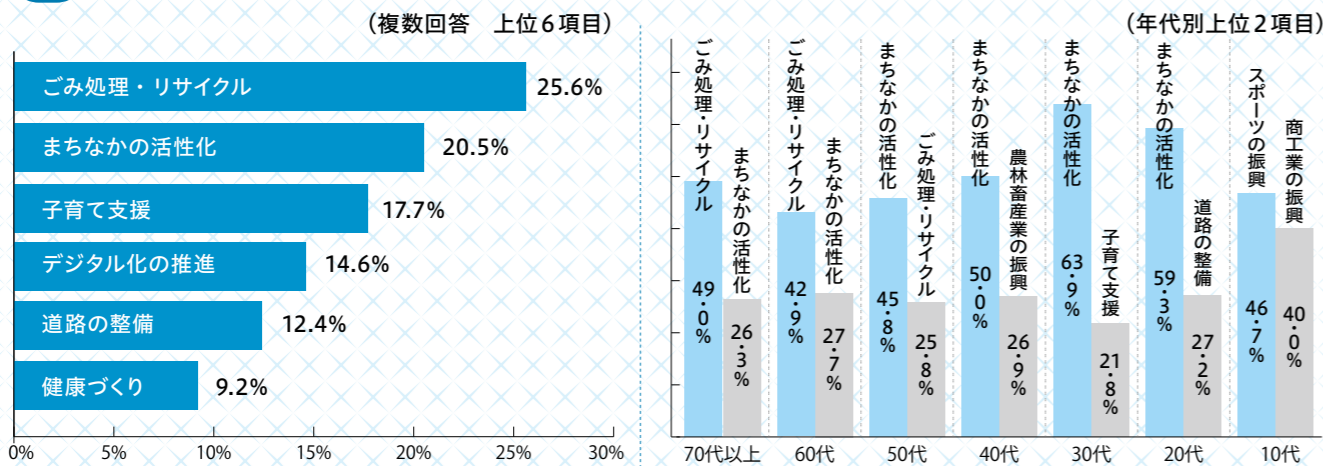


02 都城市の取り組み



Q 市が行っている施策や事業の中から、以前に比べて「良くなっているもの」を3つまで選んでください。

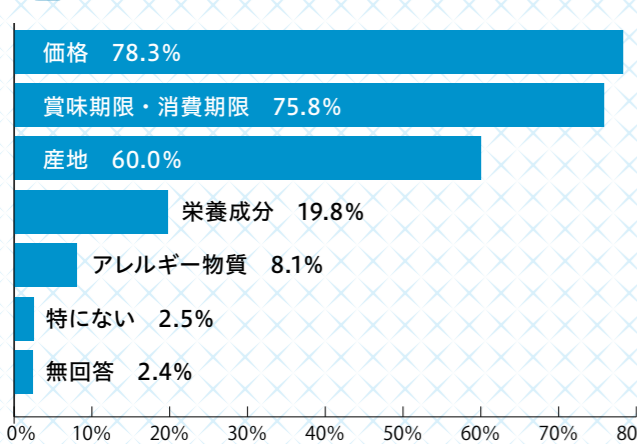


【解説】 市が行っている施策や事業の中で、以前に比べて良くなっている項目の1位は、「ごみ処理・リサイクル」で、次いで「まちなかの活性化」、「子育て支援」、「デジタル化の推進」、「道路の整備」、「健康づくり」の順となりました。年代別で見ると、10代は「スポーツの振興」、20～50代では「まちなかの活性化」、60代以上で「ごみ処理・リサイクル」が1位となりました。中でも「まちなかの活性化」が10代以外の全ての年代で1位または2位となったことは、中心市街地中核施設Mallmallをはじめとした施設などの充実が考えられます。

03 地産地消

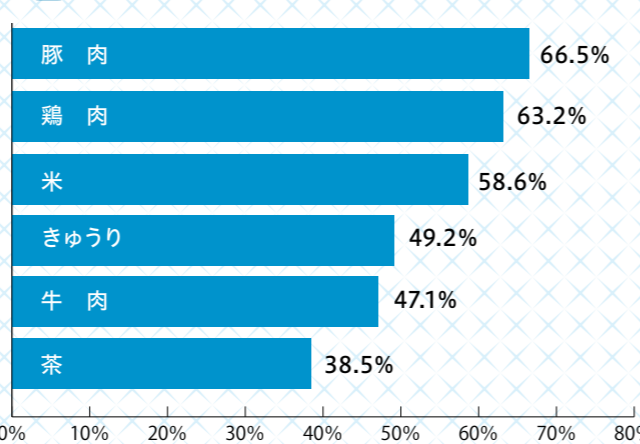


Q 日頃、食品を選ぶ際に気をつけていることは何ですか。



【解説】 「日頃、食品を選ぶ際に気をつけていること」は、「価格」が78.3%で最も多く、次いで「賞味期限・消費期限」が75.8%、「産地」が60%という順になっています。年代別で見ると、60代以上は「賞味期限・消費期限」の回答が最も多かったものの、他の年代は「価格」が一番多い結果となっていて、いずれの世代も「価格」や「鮮度」の

Q 都城産の農林畜産物で、よく口にするものは何ですか。



情報を購入時の判断材料としていることがうかがえます。「都城産の農林畜産物で、よく口にするもの」は、「豚肉」が66.5%で最も多く、次いで「鶏肉」が63.2%、「米」が58.6%という順になっています。年代別で見ると、40代以上は「豚肉」が最も多かったものの、30代以下は「鶏肉」が最も多い結果となっています。

ふれあいアンケート結果 Q&A

市では、市民の皆さんの意見を市政に生かすため、6月～7月にかけて「都城市市民意識調査(ふれあいアンケート)」を実施しました。調査に協力いただいた皆さん、ありがとうございました。今回は、満18歳以上の約13万人の市民の皆さんの中から無作為に選んだ3000人を対象に、本市の

住みやすさ、市の取り組み、地産地消、健康づくりなどについて調査を行いました。回答者は1206人(男性485人、女性692人、その他6人、無回答23人)で、回答率は40.2%でした。詳しい結果は、今後市のホームページで紹介します。

◎問い合わせ 秘書広報課 ☎23-3174

【男女別回答者数】

性別	回答者	比率
男性	485	40.2%
女性	692	57.4%
その他	6	0.5%
無回答	23	1.9%
計	1,206	100.0%

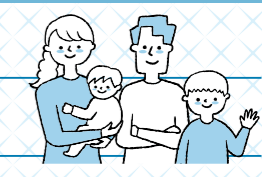
【年代別回答者数】

年代	回答者	比率
10代	15	1.2%
20代	81	6.7%
30代	119	9.9%
40代	182	15.1%
50代	190	15.8%
60代	303	25.1%
70代以上	300	24.9%
答えたくない	2	0.2%
無回答	14	1.1%
計	1,206	100.0%

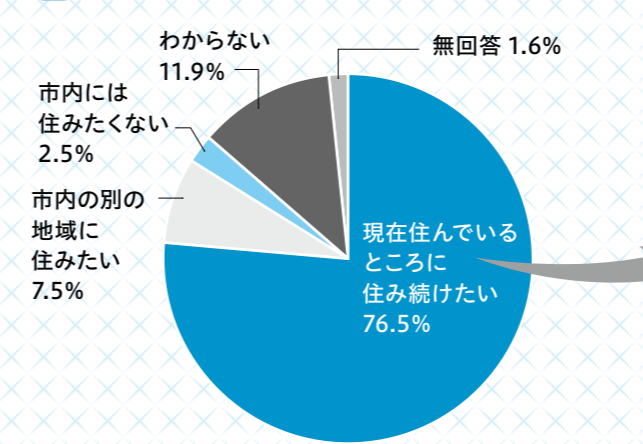
【地区別回答者数】

地区	回答者	比率
姫城	95	7.9%
妻ヶ丘	153	12.7%
小松原	67	5.6%
祝吉	138	11.4%
五十市	112	9.3%
横市	113	9.4%
沖水	114	9.5%
志和池	47	3.9%
庄内	52	4.3%
西岳	8	0.7%
中郷	63	5.2%
山之口	44	3.6%
高城	77	6.4%
山田	47	3.9%
高崎	62	5.1%
無回答	14	1.1%
計	1,206	100.0%

01 都城市の住みやすさ

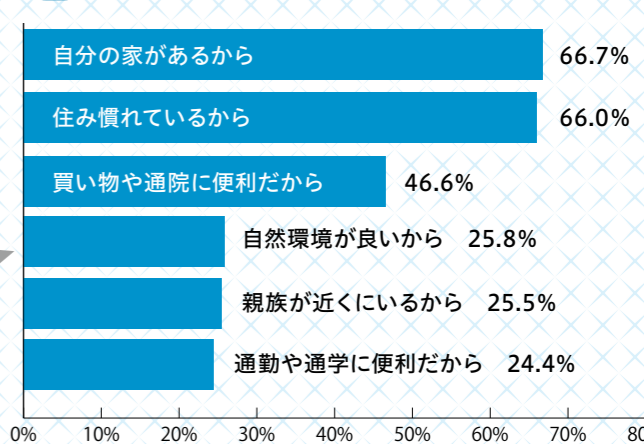


Q これからも都城市に住み続けたいですか。



【解説】 回答者のうち、84%の人が「現在住んでいるところに住み続けたい」「市内の別の地域に住みたい」と回答していて、前年度より1ポイント高くなっています。年代別に見ると、70代以上の92%が最も多く、次いで60代、50代、40代の順になっています。住み続けたい理由については、「自分の家がある」「住み

Q 「現在住んでいるところに住み続けたい」と答えた理由を教えてください。

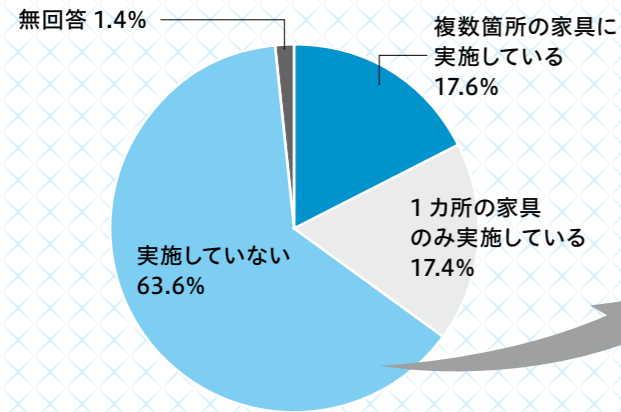


慣れている」が高い結果となりましたが、年代別で見ると、20代は「通勤や通学に便利だから」、30代は「買い物や通院に便利だから」が最も多くなっています。南九州の拠点都市としての発展を目指す本市の利便性の高さを若年層がより感じていると思われます。

06 | 地震の備え



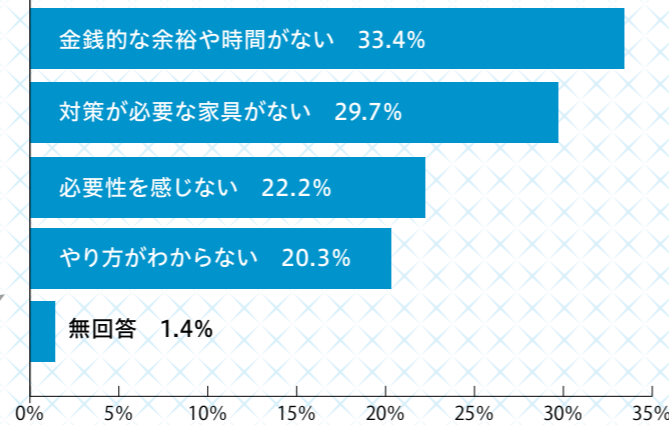
Q 家具の転倒防止対策を実施していますか。



【解説】 近い将来、南海トラフ地震発生の可能性が指摘されていることなどから地震への備えの1つである、家具の転倒防止策の実施について調査を行いました。

家具の転倒防止策を「実施していない」が63.6%と最も多い回答となっており、その理由としては、「金銭的な余裕や時間がない」が33.4%、「必要性を感じない」が

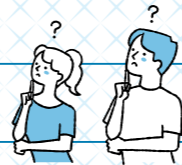
Q 家具の転倒防止対策を実施していない理由を教えてください。(複数回答)



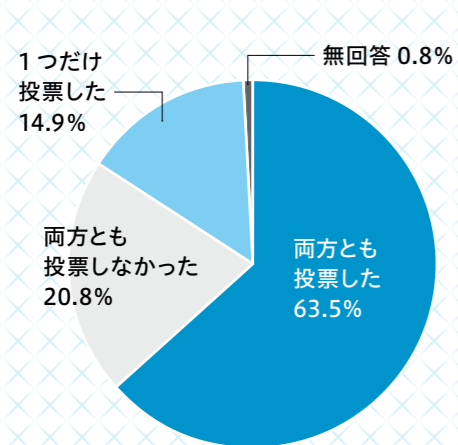
22.2%、「やり方がわからない」が20.3%と、対策が必要な家具があっても転倒防止対策が実施できていない割合が高くなっています。

過去の広報紙や市ホームページでは、家具の転倒防止対策について紹介しています。万が一に備え、対策を行いましょ。

07 | 選挙

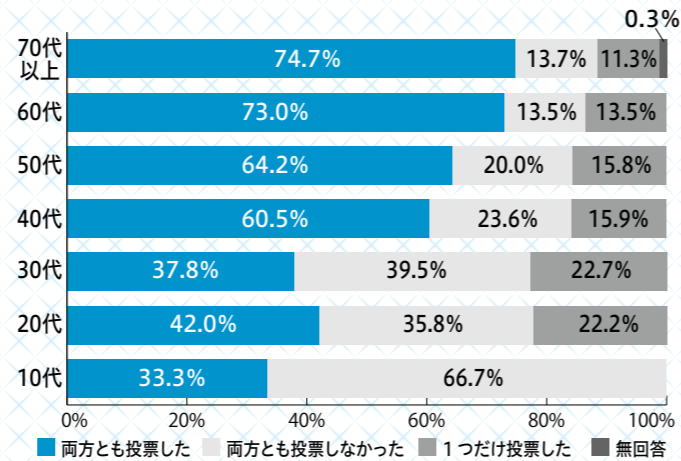


Q あなたは昨年10月の衆議院議員総選挙と今年1月の都城市議会議員選挙で投票しましたか。



【解説】 令和3年度中に実施された衆議院議員総選挙と都城市議会議員選挙の投票に関して調査を行いました。

回答した人のうち、最も多かったのは「両方とも投票した」が63.5%、次いで「両方とも投票しなかった」が20.8%、「1つだけ投票した」が14.9%となりました。

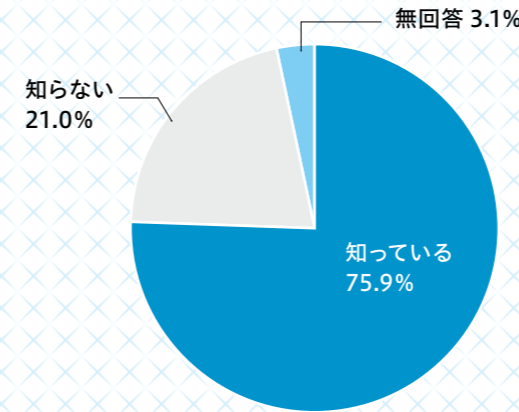


年代別で見ると、年代が高くなるにつれ投票に行った人が多くなっていて、50代以上では、80%以上の方が「両方とも投票した」「1つだけ投票した」と回答した一方で、10代では、66.7%の人が「両方とも投票しなかった」と回答していて、3人に2人は選挙に行かなかったという結果となりました。

04 | 健康づくり



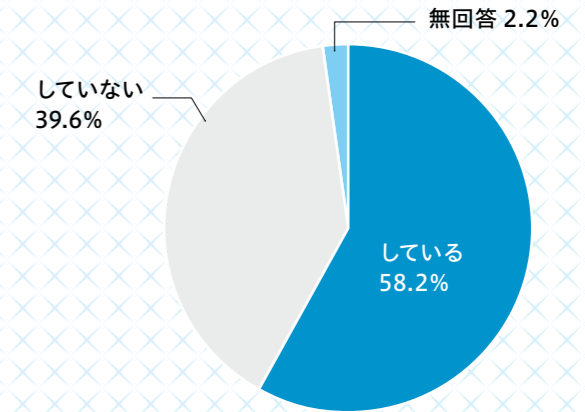
Q BMI (体格指数)が25以上だと肥満であることを知っていますか。



【解説】 平成28年国民健康・栄養調査報告において、宮崎県はBMIの平均値が全国で2番目に高く、肥満の人が多くと推定されています。

今回の調査で、「BMIが25以上だと肥満であることを知っている」と答えた人は75.9%と、BMIの認知度は高い結果となりましたが、体重のコントロールを「してい

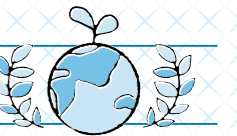
Q 体重のコントロール(適正標準体重の維持や減量)をしていますか。



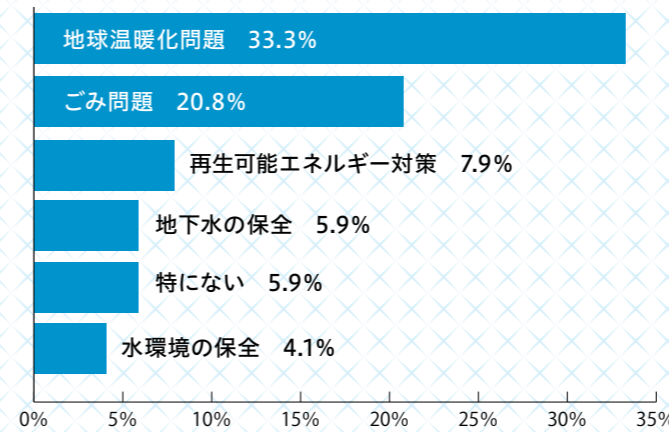
ない」と答えた人が39.6%と、肥満を解消するための取り組みを実施している人の割合が低いことがわかります。

市では、「みやこのじょう健康づくり計画21」を策定し、推進事業として健康教室やウォーキングの推進などの健康づくりの取り組みを進めています。

05 | 環境問題



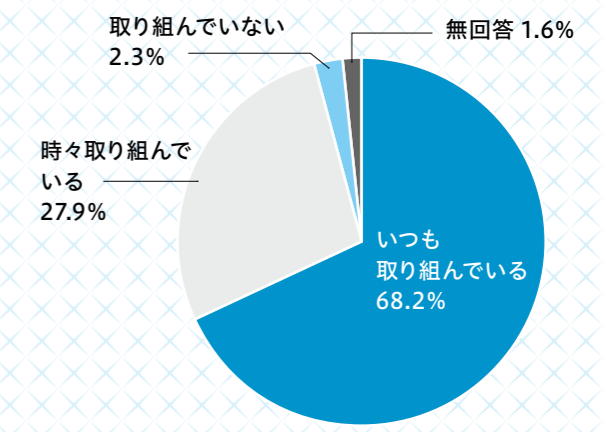
Q 最も関心のある環境問題を、1つだけ選んでください。(上位6項目)



【解説】 「地球温暖化問題」が33.3%と最も多く、次いで「ごみ問題」が20.8%、「再生可能エネルギー対策」が7.9%となっています。

上位2項目は昨年度の結果と同じですが、「特にない」が昨年度3位から今年度は5位になったことは、環境問題全般に対する市民の関心が高くなっていることがうか

Q 家庭においてマイバック運動や白色トレイ、ペットボトルのリサイクルなど、ごみの減量化や資源化に取り組んでいますか。



がえます。

また、家庭におけるごみの減量化や資源化について、「いつも取り組んでいる」「時々取り組んでいる」が96.1%となり、市民のごみに関する意識の高さがうかがえます。

未来の地球を守るため、今自分にできることを実践していきましょう。